

平成 29 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2017

|                                  |                |
|----------------------------------|----------------|
| 講座名・職名<br>Course Title・Job Title | アジア II 講座・教授   |
| 氏名 Name                          | 清水政明           |
| 専門分野 Academic Field              | ベトナム語学・ベトナム語教育 |

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 主たる研究テーマ<br>Principal Research Subject  | ベトナム語史研究・ベトナム語試験作成支援システムの構築 |
| <p>①科研費基盤研究(C)「ウェブを利用したベトナム語習得度試験システム開発のための基礎的研究」(代表：清水)のプロトタイプシステムを構築し(2018年3月)、グエン・ティ・ゴック・トーと共著論文「レベル別ベトナム語教材作成支援システムの構築」『外国語教育のフロンティア』(Vol.1)を執筆した。②科研基盤(B)「ベトナム東北部諸言語に見られる借用漢語音の研究」(代表：東京大学・吉川雅之)分担者としてベトナムバクカン省で調査を行った(2017年8月)。③慶應義塾大学言語文化研究所研兼任所員として「漢喃研究会」(嶋尾プロジェクト)に参加しチュノム資料講読を行った(2017年5,7,9,12月,2018年1,3月)。④東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築 1: 文字学に関する用語・概念の研究」メンバーとして報告「チュノムの基本構造に関する一考察」を行った(2018年2月18日)。⑤東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア地理言語学研究」メンバーとして報告「Tone and Register in Austroasiatic」を行った(2017年8月6日)。また、その成果について、SEALS2017に参加し近藤美佳研究員と共同報告「The distribution of diphthongs in Vietnamese dialects」を行った(インドネシア・パダン、2017年5月11~13日)。⑥京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究「東南アジア研究の国際共同研究拠点」代表者として報告「タイ王国ベトナム寺院旧蔵資料の意義—漢文・字喃経典『佛説天地八陽經』を例に一」を行い(2017年9月30日)、年次報告として東京大学小島浩之講師と共同報告「東南アジア地域文献の資料論的研究：ハンノム文献を中心として」(2018年2月16日)を行った。⑦大阪府立大学「言語の類型的特点をとらえる対照研究会」第5回公開研究会にてメンバーとして報告「15世紀漢文・字喃文対訳資料に見える数詞句」を行った(2017年8月12日)。⑧法務省法務総合研究所国際協力部にて、国際法整備支援プロジェクトに関する研修として講義「ベトナムの社会と歴史—「ムラ社会」ベトナムの変遷—」(2017年6月22日)、「言語を通じた日越交流」(2017年7月13日)を行い、論文「ベトナムの社会とことば」『ICD NEWS』第71号、7-26頁を執筆した。⑨その他、研究成果の社会還元として、グエン・ティ・オアインと共著「ベトナムの漢字研究—漢文訓読の問題など—」『日本語学』(第37巻2号、40-53頁)、「ベトナム」『日本語ライブラリー 漢字』(沖森卓也・笹原宏之編著、朝倉書店、163-169頁)、「Chinese and Vietnamese,」 in <i>Encyclopedia of Chinese Language and Linguistics</i> (5 vol.), Rint Sybesma et al (ed.), Brill Academic Pub. pp. 389-392 を執筆した。</p> |                             |